



まちづくり団体の取り組み ～こんなことやってます～

県内各地域におけるまちづくり団体の活動を紹介するコーナーです。今回は、笠間市のまちづくり教室の取り組みをご紹介します。

市民の市民によるまちづくり

笠間市では、市民が自主的にまちづくりに取り組み、活動内容を提言していく「まちづくり教室」が今年も開校しました。

まちづくり教室は、自分たちのまちづくりに対する認識を深めてもらい、市民と行政が一体となってまちづくりの推進を図ることを目的に、平成9年度から笠間市が主催しているもので、5年目を迎えた今年も、98人のメンバーが11のグループに分かれて活動を行います。

「まちづくり教室」の特色は、グループごとにワークショップ形式による自由な課題研究活動を行っていることです。テーマも行政から与えられたお決まりのものではありません。カメラ片手にまちを自分の足で歩いて探検する「まちの再点検と課題探し」や理想のまちを話し合う「まちのイメージづくり」、先進地視察等を通じ、主婦や陶芸家、商店主、学生ら多彩なメンバーが自主的に会合を持ち、自分たちでテーマを決め、議論を重ねながら、まちづくり提案を練り上げてゆきます。

これまで、教室のメンバーにより、道路や施設のバリアフリー化や、手作りの観光マップづくり、稲田川への鯉の放流事業、陶芸イベントなどが実現化しました。

例えば、稲田川の鯉の放流事業は、生活雑排水の影響で汚れた同河川の水質浄化を図ろうと、教室のメンバーが提言し平成10年から始められており、今年も8月4日に、鯉約700匹が放流されました。地元住民を巻き込んだこの取り組みは川の浄化意識の定着に成果を挙げています。

また、昨年度の「桃宴 陶の雑展」と題したイベント企画は、市内の各陶芸関係店舗が、独自の陶雑をそれぞれの工房で個展方式により展示するという、これまでの「一ヶ所集中型イベント会」とは違った形式により、まちなかを散策する観光客の目を楽しませると共に、これまで知られてなかった「陶の小径通り」のPRにも貢献しました。



メンバー同志でアイデアを出し合い徹底的に議論。



まちづくりの「おたく」を目指す

他にも「まちづくり教室」のユニークな点があります。「教室」と名の付く様に、各グループは「1年1組、2組」というようにクラス分けされており、継続して取り組みを行うクラスは2年生、3年生と続き「5年1組」まであります。

さらに今月には各クラスより1名以上の参加をもって構成する「まちづくり教室生徒会」が発足し、グループごとの横の連携を強化しつつ、まちづくり教室がさらに自律的なまちづくり活動団体になることが目指されています。

事務局である笠間市の都市計画課菅井係長は、「まちづくり教室は、行政と市民の壁（バリア）を取り除き、市民と行政が同様の意識・感覚・価値観を持ち一緒にまちづくりを進める場です。笠間のまちを愛し、徹底的にこだわる、まちづくりの『明るいおたく』になりましょう！」とエールを送っています。

今年度は、今後、各クラスごとに活動を続け、9月に会津若松市へ視察を行い現地のまちなみ協議会との意見交換を行うほか、専門家による講演会等を通じ、商店活性化やバリアフリー、環境など様々なまちづくりの分野について課題研究を行い、来年3月に発表会を開催する予定です。

（問い合わせ：笠間市都市計画課計画指導G

0296-72-1111内182）



川の浄化を願って地元子供達も鯉を放流